

## 第2期第9回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕2014年12月20日（土）14:00～16:00

〔場 所〕町田市生涯学習センター 6階学習室2

〔出席者〕※敬称略

委 員：石川清（会長）、小川久江（副会長）、岩本陽児、佐合昭浩、菅谷万里子、辰巳厚子、  
富川尚子、西原要四郎、花田英樹、布沢保孝、二見秀太郎、柳沼恵一、吉川雅子  
以上 13名

事務局：稲田センター長、外川担当課長、松田事業係長、堀江管理係長、  
村田担当係長、齋藤担当係長、小林主任、中村主事（記録）

〔欠席者〕太田美帆、押村宙枝

〔傍聴人〕2人

〔資 料〕・第9回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 資料1～資料5
- ・2014年度生涯学習センター運営協議会 事前提出意見
- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 報告1～報告5
- ・町田市生涯学習センター運営協議会の協議内容について
- ・町田市ホームページ 施設（中心市街地）ページアクセス数（参考資料）
- ・東京都公民館連絡協議会委員会 第3回研修会の御案内

### <運営協議会の協議内容（進め方）について>

事務局：2015年度の事業の方向性とあり方について、前回の会議の中で、市民大学事業について協議いただくということで概ね了承いただいたかと思うので、詳しいスケジュールを作成した。年間を4期に区切り、まずは4～6月にかけて、生涯学習センターの中での、現状の市民大学の位置づけ、他の事業との関連性、歴史、現在の市民大学の年間スケジュールを説明させていただく。7～9月はプログラム委員との意見交換を行い、更に他自治体の市民大学事業の調査をしていく。10～1月は、市民大学の課題、今後の方向性について協議し、2～3月で取りまとめ、報告書を作成していただくことを考えている。また、講座の見学については、2015年度前期を中心に随時実施していきたい。翌年度以降も別のテーマでこのように進めていきたいと考えている。

委 員：市民大学とことぶき大学は深く絡んでいると思うが、ことぶき大学については今回の協議内容には含まないのか。

事務局：市民大学についてのみの協議になると、個別の事業評価と変わらないため、他事業との関連性という部分ではことぶき大学との関連も必ず挙がってくると考えている。

事務局：今回お示したスケジュールはあくまで素案なので、詳細な協議内容については、またこの場で検討していただきたい。

会 長：市民大学は、「あなたを励まし地域を育てる」というコンセプトで行ってきたと思うが、生涯学習センターの中に組み込まれた時、このままでよいのかが考えるべき問題である。

委 員：理念は変わらないものだと思うが、市民大学設立当初とは人々の価値観や、市民に求められているものも変わってきているので、時代のニーズに合わせて内容は検討していくべきだと考える。

会 長：生涯学習センターとして、ニーズに合わせ、それに応えていくのか、理念に向かって市民を励

まし、支援していくのか、職員の方はどうお考えか。

事務局：運営協議会委員の皆様をはじめ、市民の方と組織とですり合わせをしながら進めていくので、難しい問題である。

副会長：今回出していただいたスケジュール案は非常によいと思うが、例えば他自治体の調査や報告書の作成はどこまで委員が関わっていけるのか。

事務局：委員に一任する場合もあれば、行政側がとりまとめて行う場合等、様々な方法がある。当然職員が執筆する場合も委員の意見は取り入れながら行うが、時間や予算等の制限もあるので、その辺りの要素も加味しながら取り組んでいきたい。

副会長：委員が執筆しても、結局は行政の方針が大きくあり、内容が反映されなかった経験が何度もある。だからこそ、今回は全員で取り組んでいきたいという思いがある。

事務局：個別事業についての報告書をまとめるというよりは、事業についての方向性を決定することが目的なので、ご意見をいただきながら、職員と委員が一緒になって作り上げることは可能である。現地調査については時間や予算の問題もあるが、ある程度資料もあるので、それらを開示していきながら、足りなければ改めて調査を行う等、できる範囲で進めていきたい。

委員：市民大学設立当初の話を耳にする機会が最近あった、高齢化が進む中、生涯学習が重要だということで、当時市議会委員だった方が議会に質問をし、検討した結果の1つとして市民大学構想ができたということだった。「HATS」とは、「Humanity」、「Art & Literature」、「Technology & Science」、「Sports & Health」という概念で、総合的に市民の立場で自らを磨き、街を育てるといふ、まちづくり、ひとづくりとしてひとつの教育の機会と捉え、始まったと聞いた。それらを伝えていくためにも、理念は歴史の中で再度振り返る必要があると考える。歴史を学ぶ上で当時の人にヒアリングを行っても良いと思うが、時代の変化の中で市民の意識も変わってきており、現在の市民のニーズがどこにあるかを調査する必要がある。そのためには、委員と職員とが一体となって進めていくべきである。

委員：「市民大学」である以上、市民の意見を聞くことが重要であると考えている。スケジュール案の中で抜けていたので、方法は今後検討していければと思うが、市民の意見を聞く機会を設けるべきである。また、役割分担については、最初に大まかに決めておけばスムーズに進むのではないか。

委員：市民が行政に参加する以上、市民と職員との間で必ずギャップが生じることは避けられない。川崎市の公民館では、全て市民が執筆している。そのような経験をお持ちの方が町田にはどれくらいいるのかを確認してから進めてはどうか。例えば部会のようなかたちで何人かがボランティア的に集まり、ある程度完成が見えた時点で職員が原稿の最終チェックを行う等も検討していただきたい。

会長：最終的に成果物を残すという点では分科会も良いとは思いますが、全員でコンセンサスを持ち、高みへ上っていく過程が重要な場合もある。大学においても、教員と職員のギャップは感じており、難しい問題である。

委員：私は2005年から10講座ほど市民大学の講座を受講しているが、2009年辺りから市民大学の理念に基づき、地域で活動しようという動きがあり、生涯学習課長を筆頭に合同計画を策定し、何度か実行している。その矢先に、市民大学の予算折衝がうまくいかなくなったという話があったようで、その計画も曖昧になってしまった。市民大学についてきちんと形づけていけば、ことぶき大学との関わりも明確になり、練り直しができるのではないか。

事務局：今おっしゃられたことは「HATSの集い」と「ネットワークの会」のどちらのことか。

委員：ネットワークの会のことである。

委員：市民大学として、様々な講座の中で受講生が核になり、地域に展開していくというコンセプトは現在でも残っていると思われる。

委員：まずは根本的なことから、1年間の協議の流れを決めておけば、テーマが何であれ、今後の運営協議会を進めていく中で進行がスムーズになると考える。細かい部分はテーマによって変わってくると思うが、委員と職員との仕事の分担のバランスは先に決めておいたほうが良い。

副会長：委員が最低限度しなければいけない事業の評価や検討は基本にあり、それと同時に生涯学習センターというものを認識し、学ぶ場を持ちたいと思っている。市民大学についてもそうだが、

生涯学習センター全体の認識がそれぞれ違うので、共通のものにしたい。その上で生涯学習センターとしての役割が果たせるよう、少しでもお役に立てればと思っている。

会長：これまでの評価だけでなく、もう少し大卒の事業について全員でコンセンサスを持ち、出てきた課題について協議したい。そのため、市民大学のみを1年間かけて行うのではない。課題について協議したことは、1つ1つ報告書を作成する姿勢で取り組んでいきたい。

委員：公民館運営審議会であれば、館長からの諮問に対する答申を行うが、それに準じた形で、センター長から諮問するということはお考えか。

事務局：生涯学習センター運営協議会は条例ではなく要綱設置であり、その要綱の中で所掌事務が定められている。それ以外で、市民大学についてご協議いただきたく、諮問、答申ではなく事務局からの投げかけということでお願いしたい。

委員：諮問、答申ではなく投げかけということだが、それによるメリットは何か。

事務局：運営協議会は審議会ではなく、事業に対するご意見をいただく場なので、そもそも諮問することはできない。

委員：公民館運営審議会では、障がい者青年学級について、諮問がないまま協議し、最終的に答申ではなく具申という形でまとめたことがある。館長からの諮問はなかったが、当時青年学級の担当者が委員の中にいたこともあり、新しい学級生の受入れが難しい状況で、何とかしなければいけないという課題があったため、審議会の中で関係者にお話を伺ったり、活動の見学をし、1年かけて具申した。

会長：審議会は本来諮問に対して答申をしなければいけないが、諮問がなかったため、その場合に限り具申という形にしたと聞いている。

事務局：公民館の時代は審議会が附属機関のため、諮問を受け、答申することは何度か行っているが、その都度様々な問題が出ていたため、それに応じて提言という形で職員、委員、関係者が一緒になって報告書をまとめた記憶がある。

事務局：事務局のほうで出させていただいたスケジュールにもお示したように、まずは生涯学習センターにおける現状の市民大学の位置づけ、他事業との関連性について、及び歴史や年間スケジュールを説明させていただきたい。4月～6月で市民大学について理解いただき、7月以降はそれを基に、今後の生涯学習センターにおける市民大学の位置づけや関連性を協議していただくことを考えている。ポリシーや内容については、その協議の中で行っていただきたい。ある程度スケジュールが固まれば、こちらから資料をご用意する。

委員：市民大学の何が問題でこの先協議していくのかを、もう少し明確にするべきではないか。位置づけや他事業との関連性についても、何らかの問題が裏にあると思うので、その辺りをもう少し絞り込み、共通認識としてスタートさせたい。

委員：市民大学では青少年対策があまりされていないので、時代背景や状況、ニーズを考えながら、見直しを行うことは大いに賛成である。これをきっかけとして生涯学習センター全体についても考えていきたい。役割分担についても緻密に決める必要がある。

会長：市民大学は設立から20年経ち、ニーズが変化している中、どのように運営していくのか。市民大学だけでなく、時代の変化に伴い我々がどのような立場で何をすべきかということも含め、ひとまずは市民大学についての問題が当面あるため、これをひとつのきっかけとして、会議の前半を使い、考えていきたい。今後市民大学についてのみ議論するのではなく、2015年度4月からの1年間は、テーマを市民大学に決め、年度末に報告書というかたちでまとめる。

委員：「市民大学の位置づけについて」等の曖昧な議論の仕方ではなかなか結論が出しにくい。議論を開始するまで3ヶ月あるので、「何のために、どこまで議論するのか」を決めていただき、資料を提示していただきたい。例えば例年どのくらいの募集を行い、参加者はどのくらいなのか、工夫のポイント、講座毎の特色など、簡単なもので構わないのでお示しいただくと議論を進めやすい。

事務局：2014年度残りの3回については、評価シートについての議論をしていただきながら、市民大学についての資料もお示ししていく。

会長：2014年度中に評価シートを改善し、2015年度からは市民大学についての議論を行っていく。

## <協議事項>

### 1、2014年度生涯学習センター事業の企画について

#### (1) ポプリホール共催事業「(仮) 挑戦！映像テクニクを身につけよう」

事務局：文化振興課がポプリホールを所管しており、文化振興課、ポプリホール、生涯学習センター職員で講座を進めていくものである。タイトルが(仮)となっていたが、「鶴川再発見 映画監督直伝 私のショートムービーづくり」に決定した。また、実施目的の「講座の成果を鶴川ショートムービーコンテストにつなげると同時に、ポプリホールの利用率を高める」とあるが、これは生涯学習センターの目的ではないため、削除していただきたい。講座については、文化振興課が、ポプリホールの利用を高めるため、催し物を開きたいということで生涯学習センターへ呼びかけがあった。生涯学習推進計画にもあるように、これまでの共催講座は「他部局の専門性を活かした講座」として行ってきたが、今回は文化振興課に専門性があるということではなく、ポプリホールで講座を行うにあたり、生涯学習センターの講座のノウハウを借りたいということで実現した。講師は映画監督をされている和光大学の准教授で、2015年に行われる鶴川ショートムービーコンテストにも関わっている方である。生涯学習センターとしてのねらいは、地域の方に参加いただき、鶴川という地域を再発見いただきたいと考えている。鶴川の情報発信も含め、講座を進めていきたい。

#### (意見・質問)

委員：本件については、映像編集作業をするにあたり、和光大学のパソコンを使用したいという依頼をいただいた。受講生が大学内に足を踏み入れるということで、大学開放センター長が学内の調整を行ったが、大学で契約しているソフトウェアが、大学構成メンバーのみとなっていることと、講座期間中メディア室がメンテナンスで利用できないため、お応えすることができず、お詫び申し上げます。

委員：映像は編集の仕方次第で意味合いも違ってくるので、非常に興味深い企画とは思いますが、他地域にも需要はあるのではないかと感じるため、鶴川地域限定とするのは勿体無い。

事務局：今回はポプリホールを活性化するという目的があったため、このような企画になった。

委員：ポプリホールで行うことはよいと思うが、参加者は市内全域で募集しても良いのではないかと。

事務局：講座実施にあたっては、市内全体の方が学ぶ場をつくることと、地域の結びつきを強めながら地域性を考えていくことの2つが考えられるが、今回は後者を優先させていただいた。

委員：まずは鶴川でこの講座を成功させ、その後他地域の魅力も発信できるよう1つ1つ行っていけばよいのではないかと。

委員：鶴川地域とはどこまでを含むのか。

事務局：鶴川市民センターで以前管轄が決まっていた金井、小野路、野津田辺りまでを考えている。

会長：鶴川以外の地域の方から申込があった場合は断るのか。

事務局：受付はするが、鶴川地域優先とする。

委員：見せ方によっては若者呼び込める講座なので、もう少し違うやり方があったのではないかと。若者の間で投稿動画が流行していることもあり、生涯学習センターに若者を呼ぶチャンスだと考えるので、是非次回以降はそのような工夫もしていただきたい。

会長：今回はポプリホールからの要望があり、このような内容になったと思うが、これが成功すれば次回以降も工夫を重ねながら実施していただきたい。

事務局：今回鶴川地域に限定したのは文化振興課の意向で、生涯学習センターは内容の企画を行った。

#### (2) 第2回利用者交流会

事務局：生涯学習センターを市民の方にもっとご理解いただいたうえで利用いただくことが大きな目的で、そのために利用者同士の交流会を行った。2013年度に第1回を行い、企画の段階から市民参加で行っていただきたいということで取り組んでいる。

#### (意見・質問)

委員：広報掲載日が募集と実施で分かれているが、企画・運営をしていただける方を1月に募集し、参加者を4月に募集するというのか。

事務局：そのとおりである。

委員：第1回実施時に疑問を抱きながら参加した方も、開始時にコンサートを行ったことで非常に評判がよく、その後の分科会もスムーズに進んだ。今回はコンサート等行うのか。

事務局：それも含め、企画運営委員会で検討していく。

委員：非常に実りある企画で、来年度以降も是非続けていただきたい。以前も空中分解してしまった交流会がいくつかあると思うので、マンネリ化しない工夫をする必要がある。

委員：第1回に参加して感じたのは、話し合いの時間が足りないことと、年1回ではなく、ゆくゆくは恒常的に利用者が話し合いのできる空間ができると良いのではないか。

委員：前半で市民大学についての議論があったかと思うが、交流会は市民の意見を聞くための良い機会ではないか。

事務局：2014年度は生涯学習センターまつりについて投げかけを行ったので、市民大学についての意見を聞くことも充分可能である。

## 2、事業評価について

### (1) 市役所職員向けスキルアップ研修「人が集まる？行列ができる！講座、イベントの作り方」

事務局：生涯学習センターとしては初の試みで、職員向けの研修会を12月1日に行った。募集定員40名に対し、応募者数が50名となり、100%を超える応募があった。内容については大変わかりやすく、目から鱗の点が多かった。実施結果についても、「今後活かすことのできる知識や技術を修得できた」という点では100%の結果となった。その反面、「今後の事業連携のきっかけを得ることができた」という点では84%と、まだまだ職員個人のスキルアップで終わってしまっている部分もあり、今後は各職員が、事業連携のメリット等をわかりやすくイメージできるような講座や取組を実施していく必要がある。また、評価については、事業プロセスの中で、グループワークの時間を多くとりたかったが、5時間の中でも講座自体の内容が非常に盛りだくさんで、なかなかグループワークの時間がとれなかったため、時間配分の工夫が必要だと感じた。担当者所見について、生涯学習センターが各部署の取組を「学習」という視点で支援しているということを理解いただき、その上で今後庁内連携を進めていきたいと考えていたため、まずは生涯学習センターの役割を周知できたことが良かったと感じている。今後もこのような取組を継続し、各部署が連携できるような仕組みをつくるため、担当者の意見交換会を2014年度中に実施したいと考えている。事前提出意見の中で、「職員研修をセンター事業費とするのは問題ないのか」というご意見をいただいたが、職員のスキルアップのみが目的ではなく、あくまでも市民の学習の機会を増やすため、職員のスキルを上げることを目的としている。そのため、数年に一度このような研修を実施し、職員同士を繋ぎ、各部署が連携することでシナジー効果を発揮できればと考えている。また、直接的に講座に関するものではないが、生涯学習センターの取組の中で、情報発信の方法についてホームページのアクセス数について、参考資料としてお示しした。「生涯学習センターのご案内」というページについて、2013年度11月は1569のアクセスだったのに対し、2014年度11月は2301のアクセスがあり、50%近くアクセス数を伸ばしている。ただ、図書館は月間アクセス数が毎月3万近くあり、まだまだ足りないと考えているので、情報発信を工夫し、他部署とも連携することで、より市民に見ていただけるようなホームページの見せ方を検討していきたい。

#### (意見・質問)

委員：参加職員の平均年齢はどのくらいか。

事務局：30代前後の職員が多かった。イベントの担当職員は若い方が多いことと、イベントを継続的にやっている部署は少なく、異動等で人の移り変わりもあるので、定期的にこのような企画を行っていく必要があると考えている。

委員：本来生涯学習センターは市民のための教育機関であるので、職員の場合は参加費を徴収してはどうか。また、図書館のホームページアクセス数については、ホームページ内で図書館の予約ができるため、アクセス数が多いのは当然だと思われる。

事務局：研修後、何人かの参加者で自由に話せる機会を設け、その中ですでに連携の話が出ている。今回の職員研修と同様の企画を、それぞれの課の視点で実施したいという話も出たので、できれ

ばそれぞれの課で予算化し、循環していきたい。あくまでも今回はきっかけに過ぎないので、今後連携講座が増えていけばよいと考えている。

委員：このような講座を行うことで、他部署で重複した内容のイベントを行わずにすむかもしれないので、非常に良い講座である。

事務局：話し合いの中で、実は同じような内容の講座を他部署でも行っていたが、知らなかったという話はいくつかあった。その点についても改善できればと考えている。

会長：ホームページのアクセス数について、「町田市生涯学習センターのご案内」ページは、「募集中のイベント、講座・講演会など」ページから入るのか。

事務局：以前は生涯学習センターのページに、「町田市生涯学習センターのご案内」と「募集中のイベント、講座・講演会など」のリンクを貼っていたが、統計をとったところ、施設利用についてのページへのアクセスが圧倒的に多かった。そのため、「町田市生涯学習センターのご案内」ページ内に「募集中のイベント、講座・講演会など」のリンクを貼るようにした。

会長：「募集中のイベント、講座・講演会など」ページのアクセス数は「町田市生涯学習センターのご案内」ページのアクセス数には含まれていないのか。

事務局：含まれていない。ホームページ充実のため、今後も分析を続けていく。

## （２）乳幼児の保護者のための講座「心がるくなるキラキラ子育て」

事務局：２０１３年度に家庭教育支援学級で学習された団体が中心となり企画・運営を行ったものである。募集定員２０名に対し、５９名の応募があり、これまで職員が企画を行ってきた企画以上に応募があった講座となった。指標の「子育てに対する気持ちが楽になった」という点では目標以上の数値が出たものの、「参加者同士の交流の時間が十分に持てた」という点については目標を下回る結果となってしまった。原因として、講義中心だったため、グループワーク等の交流の時間があまりとれず、このような結果になったと考えている。乳幼児講座については、受講後グループ化し、その後家庭教育支援学級へ進むことがあるため、今後交流の時間を充分にとる必要がある。また、企画団体と職員が共通認識を持って進めていかなければいけないという反省点が残った。

## （３）シニア世代のための子育て支援講座

事務局：この講座についても家庭教育支援学級の団体が企画・運営を行った。募集定員３０名のところ２８名の応募があり、途中から参加したいという方も数人いらっしやったため、口コミによる効果もあったと考えられる。家庭教育に関する講座でシニア世代を対象にしたものはこれまでなかったため、集客の不安もあったが企画団体が熱心に広報活動を行ったこともあり、十分な参加者を得ることができた。内容について、指標の「家庭教育・子育て支援への関心が高まった」という点では指標には届かなかったものの、７０％という結果が出た。それに対し、「自分にもできる家庭教育・子育て支援が見つかった」という点では目標を大きく下回ってしまった。限られた回数の中で「子育て支援」という非常に幅広いテーマを取り上げたため、内容を詰め込みすぎたことと、以前ご指摘いただいたとおり、ターゲットを明確にしないと講座自体がぼやけてしまうという反省が残った。とはいえ初めて家庭教育・子育て支援をシニア世代に広めたことと、家庭教育支援学級の団体が講座を企画し、実施できたことが、まずは第一歩になったと考えている、また、（２）、（３）の企画を通して、企画団体と職員の役割分担や意思疎通を充分に行うことが今後の課題と感じている。

### （（２）、（３）についての意見・質問）

会長：（２）の講座について、保育室の定員の関係で募集定員を定めたとと思うが、結果２倍以上の応募があり、受講できなかった方が多数いることについてはどうお考えか。

事務局：保育室の定員の問題もあるが、乳幼児講座を行う際、現在の保育士の人数では、２０名程度が限界であり、定員を増やすことは難しい。ただ、乳幼児講座は毎回定員を超える応募があるため、これまでどおり年２回程度、今後も継続して行っていきたい。

副会長：地域で活動されている方を対象にするのであれば、シニア世代といっても少し年齢を下げたほうが良いのではないか。

事務局：地域で活動されている方、したい方を対象に絞って行ったほうが良かったのではないかと実施後感じた。すでに子育てを終えた方の力を地域が必要としているという意識啓発と、具体的な活動についての内容を一緒にたにしてしまったため、目的を明確にできなかったと感じている。

会 長：電話受付の際、年齢は伺ったのか。

事務局：伺っていない。

会 長：講座申込の際年齢を伺うことはあるのか。

事務局：ことぶき大学は、60歳以上の方が対象のため、ハガキ申込の際に年齢を記入していただいている。

委 員：非常に難しいテーマであると思うが、次年度も是非継続して実施していただきたい。

委 員：子育て支援の具体的な内容については講座の中で触れたのか。

事務局：講義の中で、子育て支援といっても非常に広いテーマのため、具体的なものがなかなか絞りづらかったようだが、第3回目に、実際に地域で活動している方達がどのように活動し、どのようなことで喜びを感じるかというお話をしていただいたことで、具体的な活動がイメージできるヒントになったのではないかと考えている。ただ、あくまで団体としての地域活動のお話だったので、もう少し身近に、すぐ実践できるような内容についてはもう少し時間をとるべきだったと感じている。

#### (4) その他

事務局：事前に頂いた意見の中で、台風や雪の際の講座の対応に関するご質問を頂いたが、以前大雪でイベントが中止になった際は、一人ひとり受講者全員に電話連絡をした。また、中止にする基準としては、警報が出た時点で状況を見て判断している。

#### <報告事項>

##### 1、事業評価の最終報告

事務局：報告1～4まで、資料のとおり報告する。

##### (2) センター長報告

町田市議会第4回定例会が12月22日に最終日を迎える。生涯学習センターについての一般質問は特に出なかったが、生涯学習総務課に対し、文化財保護条例改正に関する質疑と、図書館に対し、赤ちゃんタイムに関する一般質問が出された。

また、障がい者青年学級実践報告集をお手元にお配りした。2014年度で障がい者青年学級が40周年を迎え、記念式典も無事終了した。当日は式典を行った市庁舎で衆議院議員選挙の期日前投票があり、投票に立ち寄った方が足を止めて様子を見ていただいたこともあり、多くの市民の方にご覧いただけた。

##### (3) 東京都公民館連絡協議会について

委 員：平成26年度東京都公民館連絡協議会委員部会第3回研修会が、1月31日に福生市民会館で行われる。全体のテーマ「公民館の活性化」の中で、第3回目は「若者と地域の居場所づくり」について、若者のニートやひきこもりの居場所づくりのための国立市の取組の事例報告があり、その後駒澤大学教授の萩原健次郎氏にご講演いただく。職員、委員、市民の方にご参加いただけるので、ご興味があれば是非ご参加頂きたい。町田市でもひきこもりの講座を行っていると思うので、関係者の方にも是非周知頂きたい。

#### <その他>

なし。